

B-83 衣生活における既製服の動態に関する研究 (第4報)

一宮女子短大 山本かなる

1. 目的 私はさきに産業経済の高度発展につれて、日本の衣生活パターンは急速に塗りかえられつつある。特に既製服がどのように著しく進出したか、その実態について明確に組織的に把握いたしたく愛知県下を、3ブロックに区別してそれがどのように受容されつつあるかの実態をとらえ将来における被服教育上の参考にいたしたく、この問題を重点的に追求、比較研究のため昭和37年～38年と続いて調査を行ない、前回までに37年度、38年度調査内容について、データーを求め、本報はその両年度について詳細に比較研究を行なった。

2. 方法 調査期間、昭和37年2月調査対象、幼稚園～大学に至る40校生徒を通じ主婦に依頼2,000世帯のうち1,805世帯の回答を得た。同38年2月対象中学校23校1,150世帯に対し1,044世帯の回答を得た。両年度の調査内容について県下3ブロックに分けてデーターを求め3ブロック比較研究を1報2報によって行ないつづいて第3報にて38年度調査結果について前回同様データーを求め本報において両年度の比較研究を行なった。

3. 結果 以上の調査から得た内容は居住特性地域差の影響職業特性年代別による影響購入品の長短購入地点とその理由品種の傾向など既製服への要望その他が、指摘され、37年～38年度における愛知県下の既製服消費の動態が認められ現代将来における衣生活消費状況ならびに既製服の動態に関する資料の一端を得た。